

114
A5274

頃首再拜雨未久シク閣下ノ聲款ニ接セス側カニ聞ク閣下

王室ニ大勲勞アリ英名日ヲ逐テ熾ナリト之ニ依テ誠恐誠惶謹

テ書ラ 参議大隈公ノ閣下ニ奉テ書聞ク璞磨カザレハ以テ先

ヲ出スナシ人学バズハ以テ身ヲ立ルナシト捨ヤ曾テ此ノ語ヲ解シ家ノ

貧賤ナルヲ厭ハス日夜汲々好テ書ヲ讀ミ遂ニ四方ニ周流シ普ク世

勢ト人情トヲ察シ以テ志ス所ヲ成サント欲ス而シテ捨ク性鄙鈍年シ

既ニ二十名未タ農賈ノ表ニ顯ス嗚呼何ノ面目アツテ天下ニ功業

ヲ望マニヤ一念ノ此ニ至ル毎感慨四集血淚交々下リ天壤ノ間身ヲ

置クニ處ナシ是ヲ以テ誠恐誠惶頃首々々昧死血泣謹テ言ス往年崎

陽ニ於テ閣下ニ謁ス閣下捨カ鄙鈍ヲ憐ミ成業ノ難キヲ察シ懇々

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

愛野捨九郎

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60

示スニ東遊ノ事ヲ以テス當時格年シサク父母ノ心捨カ遠ク遊フヲ欲セ
ス捨又父母背リヲ安セス閣下ヲ辞シテ歸リ益々奮テ書ヲ讀ミ理ヲ究メ
而シテ動モスレハ進歩ノ行ナルヲ慨シ曩者閣下ノ捨カ為ニスル厚キヲ追
思シ春戀ノ情俄ニ絶ツ能ハス之ニ依テ一タレ都會ノ地ニ出テ博ク見聞
ヲ取り遠ク智覚ヲ開カント欲シ東遊ヲ企ル者数々而シテ捨カ家貧
賤母ヲ喪テヨリ孤立衣食ノ資ヲ猶ヲ且ツ是レ之ニ況ンヤ遠
遊學費ノ供給ヲヤ此ニ於テ火心益々燃ニ切齒扼腕日夜俯仰東ニ
向ヒ茫然血淚ノ兩袖ヲ濕スノ一日漸然自ラ奮テ曰ク帛宛ニ入ラズニ
帛見ヲ得ヌ何ゾ碌々隴畝ノ間ニ朽シヤト頃ニ意ヲ決シ財器ヲ估
却シ衣類ヲ典散シ僅ニ旅費ノ策ヲ設ケ頃者始テ此地ニ出ルヲ
得タリ而シテ府下文人學士俊秀ノ者輻輳スト至凡身ヲ託シ以テ

寄食ヲ請フ所ナレ幸ニシテ閣下ニ知ラル、有リ是ヲ以テ足ニニ色
門ニ及フト至凡猶ヲ聲歎ニ接スヲ得ス慨歎スルモ猶ヲ餘リ有リ捨
又嘗テ聞ク英國ノリンドセイレ知少ニシテ父母ニ別レ「グラスゴー」ヨリ
リバアール山ニ赴カント欲スルノ蒸氣船ニ乘リ其ノ費用ヲ償フ能ハス
船中ノ使役ニ勞事シ身ヲ以テ之ヲ償ニテラ船主ニ請フ船主ノ情ヲ
憐ミ之ヲ許諾シ以テ船役ニ充ツ而シテ勤勉急タラス多少ノ疲勞
ヲ厭ハス既ニ着シテ後テ四十餘日ノ間未ク職業ヲ得ス辛苦
艱難漸ク船中ノ小斷トナル而シテ志ハ益々堅ク行ハ益々善ク遂
ニ進テ船主トナル嗚呼積心ノ至ル處何ニ事カ成ラザランヤ然リト
至凡亦船主ノ取容ニ遇ハサレバ其ノ名ヲ顯スヲ得サルナリ語ニ之
アリ曰ク成テ望ム者ハ居ル必ス郷ヲ擇フ遊フ必ス士ニ就クト

捨則テ當時ノリントセイシヤリ 敢テ請リハ捨カ志ヲ憐ミヨク石
ノ下ニ置キ捨ラシテ閣下ノ家ニ勞事シノハ辛使苦役ハ固ヨリ厭
ハサルナリ唯其ノ餘カラ以テ捨カ學ハント欲スル所ヲ學ビシメ為サ
ト欲スル所ヲ為サシメハ何ノ幸カ之ニ加カン何ノ幸カ之ニ加カン捨ヤ
未タ學ビサル所ヲ學ビ未タ知ラサル所ヲ知リ未タ經驗セサル
所ヲ經驗シヨリ以テ夜ニ絶キ刻苦勉勵セハ鄙鈍ト雖凡亦成ル
所アラシ然則今ヨリ後ヲ捨カ學ブ所ノ學為ス所ノ者經驗スル
所ノ事而シテ捨カ成之人トナル所ノ者モ亦皆閣下ノ賜ナリ閣下
非常ノ哀憐ヲ垂レ捨カ敢テ請フ所ヲ容レヨク尤石ノ下ニ致
セ尊威ヲ冒躐シ恐懼限ナシ捨誠恐誠惶頓首々々昧死再拜